

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第 **52** 号

平成17年 1・2・3月



●法華経 妙莊嚴王本事品第二十七(平家納経のうち) 厳島神社

復興支援
台風被災

厳島神社国宝展

平成17年1月2日(日)～2月13日(日)
東新館

特別展

曙光の時代

ードイツで開催した日本考古展ー
平成17年3月23日(水)～5月8日(日)
東・西新館

特別陳列

大和の神々と美術 談山神社の名宝
～1月23日(日)

法隆寺救世観音像旧厨子
～1月23日(日)

お水取り

平成17年2月15日(火)～3月21日(月・振替休日)
西新館

平常展

仏教美術の名品

本館・西新館

中国古代青銅器

本館

台風被災復興支援

厳島神社国宝展

日本三景の一つ、安芸の宮島に鎮座する厳島神社（広島県宮島町）は、平安時代末期に整備されたみごとな景観を現代に伝える、わが国屈指の名社です。平成八年には世界遺産として登録され、瀬戸内海に建つ壮麗な社殿や、平家をはじめとする武家の奉納にかかる夥しい社宝は、後世に守り伝えるべき世界的な文化財として、今日ますますその価値を高めています。

本年九月、日本列島を襲った台風十八号により、同社は国宝・重要文化財計四十棟のうち国宝・左楽房が倒壊するな



●法華経 序品第一（平家納経のうち）

ど、被害は三十棟に及びました。復旧には約七億九〇〇〇万円が必要とされ、修復作業は二年近くかかる見通しです。この展覧会は復興支援のため緊急企画され、奈良国立博物館での開催後、東京藝術大学大学美術館に巡回（三月二十五日～五月八日）します。本展では「平家ゆかりの品々と厳島の至宝」「国宝・平家納経―善美をきわめる―」「厳島の芸能―仮面と装束の美―」の三つのテーマで同社の宝物を紹介し、奈良会場では国宝九件、重要文化財十六件を含む、総計三十件約百二十点が出陳されます。

中でも最大の話題は、平安時代に平清盛とその一族が写経した装飾経の最高傑作「平家納経」が奈良会場・東京会場に各十七巻展示され（奈良では5期に分けて展示。「平清盛願文」は両会場で展示）、二会場で全三十三巻の公開が実現することです。各巻とも表紙、見返、本紙、発装金具、軸端、紐など隅々に至るまで、当時最高の技術で多種多様な荘厳が凝らされており、わが国の貴族文化の到達点を見ることができます。特に見返絵は、まばゆい金銀の輝きと鮮やかな色彩が融合し、装飾美の極致を示しています。

このほか甲冑史上屈指の逸品である平安時代の小桜韋黄返威鎧（国宝）及び細糸威鎧（国宝）、また梨子地桐文螺鈿腰刀（国宝）をはじめとする名刀の数々、平安時代の公家装束・調度の実態をよく示す古神宝類（国宝、みことな色彩と意匠が目を引く能・狂言装束（重要文化財3点を含む）など大きな見所です。

本展が、厳島の社宝の美を再認識することをおして、多くの方々が文化財保護の重要性に関心を寄せ、その意義を深く理解して下さる機会となることを願ってやみません。なお展覧会の収益は、厳島神社復興支援の一助となります。

会期 平成十七年二月二日（日）～二月十三日（日）
会場 奈良国立博物館 東新館
主催 奈良国立博物館・厳島神社・読売新聞社
共催 NHK奈良放送局
後援 文化庁
協賛 清水建設、ニッセイ同和損害保険、日本通運、松下電器
協力 近畿日本鉄道、JR西日本



●小桜韋黄返威鎧（兜・大袖付）



●能装束（鳳凰桜雪持笹文様唐織）

特別陳列

お水取り

会期 平成十七年二月十五日(火)～
三月二十日(月・振替休日)
会場 奈良国立博物館 西新館

古都・奈良に春の訪れを告げる東大寺・お水取り——今年は数えて一二五四回目に当たります。当館では例年この時季に合わせ「特別陳列 お水取り」を開催し、美術作品や歴史資料を通じてお水取りに親しんでいただいております。

今年には特に、お水取りを陰で支える人々に注目し、その活動の一端を紹介したいと思います。「伊賀一ノ井松明講」は、お水取りのクライマックスを飾る「達陀」に用いる松明の部材を調達する講として、少なくとも鎌倉時代以来お水取りを支えてきました。今回の展覧では、初公開となる「松明行事帳箱」、「南都二月堂人足帳」などの関連資料を通じて松明調進行事の様子を紹介します。この機会に、「不退の行法」と呼ばれ千年以上にわたって絶えることなく行われてきた行事に代々奉仕してきた人々にも思いを寄せていただければと思います。



●二月堂本尊光背（東大寺）



二月堂縁起絵巻（東大寺）

ところで、清浄を大変重んじるお水取りでは、二月堂に参籠する練行衆が、法会の始まる九日前から「別火坊」というところに籠もり、世俗との接触を断ちます。そうして身を清めお水取りに臨むのですが、別火坊の様子は娑婆と結界されているため一般にはみることが叶いません。今年の展覧ではその別火坊の様子を特別に展示室に再現します。

このほか二月堂本尊光背や二月堂縁起など、お水取りゆかりの作品も出陳されます。これを機に、南都の春の風物詩であるお水取りについて、理解を深めていただければ幸いです。

特別展

曙光の時代

—ドイツで開催した日本考古展—

会期 平成17年3月23日(水)～5月8日(日)
会場 奈良国立博物館 東・西新館
主催 奈良国立博物館、文化庁
独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所
国際交流基金



ベルリン会場の看板

今年度、ドイツでは、“Zeit der Morgenröte”（曙光の時代）と題する日本考古学の大規模な展覧会が、マンハイムとベルリンの二都市にわたって開催されました。これは文化庁の主導する国際交流事業の一環として、日本文化の成立過程を考古学的な名品の数々によって紹介するものです。ドイツにおける会期終了を機に、この展覧会を日本国内の皆様にもご観覧頂けるよう、奈良国立博物館で帰国展を開催する運びとなりました。

青森県三内丸山遺跡や佐賀県吉野ヶ里遺跡、奈良県飛鳥池遺跡など、近年大きな話題をよんだ遺跡をはじめとして、旧石器時代から奈良時代までの各時代を代表する重要遺跡から集めた1500点以上の出土品（国宝3件・重要文化財35件を含む）が一堂に展示されます。日本考古学に関するこれほど大きな規模の展覧会は、海外はもとより国内でもほとんど開催される機会がありません。奈良だけの特別開催となりますので、是非、この機会にご観覧頂き、日本文化の曙光に想いを馳せていただければ幸いです。



左上：◎火焰型土器（馬高遺跡）
（長岡市立科学博物館）

◎有柄銅剣（吉野ヶ里遺跡）
（文化庁）

◎女子人物埴輪（綿貫観音山古墳）
（群馬県立歴史博物館）

展 示 評

〈外からみる奈良博〉



観覧風景

正倉院展雑感

混んだところが嫌いである。息苦しい満員電車、予約のとれないレストラン、そして人の背中しか見えない展覧会。正倉院展もいつも混み合っている。かつてはチケットを買うために並ばなければならなかった。その長蛇の列を見て、行き先を奈良県美に変えたこともある。独立行政法人になってから、チケットは前売りができるようになり、JRの窓口でも買えるので、その点は解消された。また、奈良博の新館が拡張されたこともあり、以前よりは混雑が緩和された感じがする。でも、混んでいる。

混んだところで、一つひとつ、作品を鑑賞するのは苦手だ。ぼくはとりあえず会場をざっと見て、見たいものがどこにあるのかを把握する。そして、振り出しに戻って、飛ばし飛ばしに興味のある作品だけを見る。あとはチラッと覗く程度である。なぜか、展覧会をはじめから順番に見ようとする人は多い。もちろん、厳密に構成された展覧会もあるので、順番に見ていかないと理解できない場合もあるが、正倉院展は一から順に見なくてもよいだろう。図書館にいて端から順に本を読む人はいないのだから。疲れる前にまず興味のあるものを見るのがぼくの鑑賞法である。

人に押されながら美術鑑賞なんかできない。ゆつくりと正倉院展を見られないものか。そこで一つ提案。国立博物館も法人として独立し、自由になったのだから、さまざまな鑑賞の場を提供してもよいと思う。入場料金の差別化をおこなうのである。ぼくのように混雑の中で展覧会を見たくない人も少なくないと思う。そういう人に対しては特別な時間帯を設ければよい。週一回、いや展覧会期間中に一回でもよい、入場者数を制限してプレミアム料金で解放するのである。逆に、通常よりも安くして新たな来館者を確保することもできる。その選択は来館者に任されるのだから、プレビューに特別な人だけが招待されるよりはよほど自由平等である。

それは将来に期待するとして、第五十六回正倉院展はいつものにぎわいの中で拝見した。今回の見所は、まず楽器であろう。なかでも、遙かペルシアの音色が響いてきそうな「楓蘇芳染螺鈿槽琵琶」

は圧巻であった。槽の異国情緒たつぷりの螺鈿細工、唐画を髣髴させる捍撥の密陀絵、これが日本でつくられた可能性があるというのだから、当時の日本がいかに外来の文物に憧れていたかがうかがえる。私が専門とする染織の分野では聖武天皇がもたれたかったという「紫地鳳形錦御軾（ひじつき）」が有名である。錦の鳳凰がキリッとしていいのである。しかし、それ以上に目をひいたのは「白綾帳（綾織りのとばり）」という地味な染織品であった。綾は表からみると、文様がヨコ糸で織りだされる。裏から見れば、逆にタテ糸で文様が織りだされることになる。つまり、表と裏では文様の見え方が違う。この帳

は綾が表・裏・表・裏・表となるように五枚に接いだである。天平の昔、風に吹かれた帳は、光の具合によつて文様が微妙に浮きでたり、沈んだりしたのである。今ではその帳も平のぞきのケースに収まり、微動だしない。保存のためやむを得ないが、ライティングによって綾のおもしろさを引き出すことができたかもしれない。文書のところでは鑑真和尚の手紙を横目にしつつ（後で図録を見て、今年が鑑真来朝一二五〇年にあたることを知り、この計らいに感じ入った）、次の部屋へ。「紫檀塔残欠（小塔の部材）」の部屋に入つて部材の細かさに関心したが、部材が一部屋を占領していて飽きてしまった。最後の部屋で、いくつかの染織品を見て今日は満足。やはり疲れたが、また来年も来てしまふのだろうか、正倉院展には！

関西学院大学教授 河上 繁樹



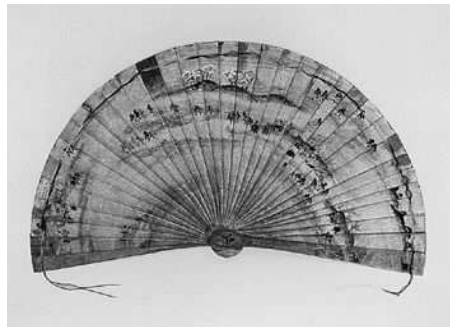
観覧風景



◎大形板状土偶(三内丸山遺跡)(青森県教育委員会三内丸山対策室)



香水壺(東大寺)



●檀扇(厳島神社古神宝類のうち)(厳島神社)

台風被災復興支援
厳島神社国宝展
1月2日～2月13日 東新館

「平家ゆかりの品々と厳島の至宝
大鳥居扁額、◎狛犬、◎小桜草黄返威
鎧(兜・大袖付)、◎紺糸威鎧(兜・大袖
付)、◎浅黄綾威鎧(兜・大袖付)、◎太
刀(銘 友成作)、◎梨子地桐文螺鈿腰
刀・刀身(銘 友成作)、◎木地漆螺鈿飾
太刀、◎錦包簾巻太刀、◎錦包簾巻腰刀、
◎太刀(銘 文永二年三月清綱)、◎金銅
鶴蓬萊文兵庫鎖太刀、◎松喰鶴文毛彫
長覆輪太刀、◎太刀(銘 一)、◎扇、◎古
神宝類(宝相華文螺鈿平座飾太刀、双
鳳文螺鈿平座飾太刀鞘、半臂、內衣、石
帶、平緒、木笏、平胡録、箭、飾太刀、檜
扇(三柄)、飾太刀箱、松喰鶴文蒔絵小
唐櫃)、◎御判物帖(藤原頼成議状(十
二号)、権中納言平清盛家政所下文(十
三号)、◎紺紙金字法華經(卷一、卷五、
卷八、觀普賢經)*、◎飾馬、経尾経塚出
土品(青白磁合子、陶製甕、山吹双鳥文
鏡)、◎諸尊仏龕、◎密教法具

二、国宝・平家納経―善美をきわめる

◎金銀荘雲龍文銅製経箱(平家納経納
置)、◎蒔絵唐櫃(平家納経納置)、◎
平家納経*(各巻の展示期間は次の通り)
1/2/1/16 平清盛願文(巻末)、
法華経序品第一、法華経五百弟子受記
品第八、法華経法師功德品第十九、法華
経普賢菩薩勸発品第二十八
1/18/1/23 法華経方便品第二、
法華経授記品第六、法華経法師品第十、

法華経見宝塔品第十一、法華経妙莊嚴
王本事品第二十七

1/25/1/30 法華経方便品第二、
法華経授記品第六、法華経見宝塔品第
十一、法華経如来神力品第二十一、法
華経妙莊嚴王本事品第二十七
2/1/2/6 法華経信解品第四、
法華経勸持品第十三、法華経安樂行品
第十四、法華経從地涌出品第十五、般若
心経
2/8/2/13 法華経提婆達多品
第十二、法華経勸持品第十三、法華経安
樂行品第十四、法華経從地涌出品第十
五、般若心経

三、厳島の芸能 仮面と装束の美

◎舞楽面(二ノ舞、咲面、腫面)、陵王、納
曾利、散手、貴徳、抜頭、採桑老、還城婆、
陶製瓶子、◎奚妻鼓および振鼓、◎七弦
琴、能面(翁二面)、黒髭、小面、喝食、神
体、狂言面(囃、猿)、◎舞装束(納曾
利袍)*、◎能装束(鳳凰桜雪持笹文様
唐織)*、能装束(段替り菊笹亀甲大内
菱文様唐織、変り菱に扇散し文様唐織、
枝垂桜に舞楽文様唐織、段替り網目に
蒲公英と菫文様唐織、段に扇と団扇文
様縫箔、花筏文様縫箔、蜀江文様狩衣、
鱗に橘文様狩衣、角繫ぎに牡丹文様法
被、竹と盤長文様法被、花車と桜折枝文
様長絹、松に蔓と蜻蛉文様長絹、花髪斗
に胡蝶文様舞衣、椿と桐の折枝文様舞
衣)*、◎狂言装束(柳に鶯文様上衣、楓
菊桐杜若文様上衣)*、狂言装束(冊子
散し文様素襖、雲に芦薈文様素襖、放駒
と竹矢来文様肩衣、枇杷と鱗文様肩衣、

矢袈と石垣文様肩衣、括猿と雷文繫ぎ
文様肩衣)*、草花文様帯*、波に水藻
と貝し文様帯*、巻水に河骨文様
帯*、鱗文様帯*、枝垂桜に蝶文様
帯*、早蕨文様帯*、水面に菱文様
帯*、芙蓉文様帯*、凌霄花文様腰
帯*、海松に貝文様腰帯*、南天文様腰
帯*、双龍文様腰帯*
※名称の末尾に*を付けた品は、会期中
に展示替えをおこないます。詳細は別途
ご確認ください。

特別陳列

お水取り

2月15日～3月21日 西新館

◎香水杓、香水壺、東大寺縁起、二月堂
曼荼羅(以上、東大寺)、東大寺曼荼羅(個
人)、◎類秘抄(当館)、◎二月堂本尊光
背、二月堂縁起絵巻、処世界日記、二月
堂処世界私日記、新入心精進之事、二月
堂時導師法則、◎二月堂修中日記(以上、
東大寺)、南都二月堂人足帳、松明行事
帳箱(以上、伊賀一ノ井松明講)

平常展

仏教美術の名品

1月2日～3月27日 本館

【彫刻】

〈奈良時代の仏像〉 第1室

◎脱活乾漆・木造梵天立像、◎脱活乾漆・
木造伝教脱菩薩立像(以上、秋篠寺)、
◎銅造法華説相図(長谷寺)、◎木造菩
薩立像(金竜寺)、◎木心乾漆文殊菩薩

坐像(葉師寺)、木心乾漆菩薩坐像(観
音寺)、◎銅造誕生釈迦仏立像及び灌
仏盤(東大寺)、銅造誕生釈迦仏立像、
銅造誕生釈迦仏立像(以上、当館)、◎
銅造誕生釈迦仏立像(悟真寺)、◎銅造
誕生釈迦仏立像(正眼寺)、銅造誕生釈
迦仏立像(個人)、◎脱活乾漆十大弟子
立像のうち舍利弗・目犍連像、◎脱活乾
漆八部衆立像のうち緊那羅像(以上、興
福寺)、◎木造西大門勅額(東大寺)、◎
木心乾漆光背(聖林寺)、◎木心乾漆伝
義淵僧正坐像(岡寺)、◎木心乾漆阿闍
如来坐像(西大寺)

〈平安・鎌倉時代の仏像〉 第2室

◎木造阿弥陀如来立像、◎木造重源上
人坐像(以上、浄土寺)、◎木造司命倚
像(金剛山寺)、木造閻魔王坐像(東大寺)、
◎木造薬師如来立像(元興寺)、◎木造
聖観音立像(観心寺)、◎木造十一面観
音立像(勝林寺)、◎木造十一面観音立
像(地福寺)

〈ガンダーラ・中国・朝鮮半島の彫刻〉 第4・6室

ガンダーラ

石造菩薩立像、石造仏伝図浮雕(以上、
当館)、ストゥツコ如来頭部、ストゥツコ如
来坐像、ストゥツコ菩薩立像、ストゥツコア
トラス像、石造貴婦人群像(以上、個人)
中国

銅造仏三尊飾板、銅造菩薩坐像、銅造
力士立像、◎木造諸尊仏龕(以上、個人)、
銅造二仏並坐像、方形独尊坐像、方
形阿弥陀三尊、方形独尊、方形独尊、小
型独尊、以上、当館、多宝塔、多宝、
石造如来頭部(雲岡)、石造如来頭部(天



●金銅透彫舍利容器(西大寺)



◎仏涅槃図(石山寺)



●銅造誕生釈迦仏立像及び灌仏盤(東大寺)

- 竜山)、石造仏五尊碑像、石造仏立像、石造仏浄土碑像、◎石造三尊仏龕(以上、個人)、◎石造三尊仏龕、◎石造十一面観音立像(以上、当館)
- ＊朝鮮半島＊
- 銅造如来立像(光明寺)、銅造如来立像(当館)
- 〔檀像〕
- ◎木造観音菩薩立像(本山寺)、◎木造弥勒仏坐像(東大寺)、◎木造維摩居士坐像(石山寺)、◎木造十一面観音立像(海住山寺)
- 〔伎楽面〕
- ◎治道・崑崙・力士・太孤父・醉胡王・醉胡従・醉胡従(以上、東大寺)
- ◎小金銅仏
- ◎銅造観音菩薩立像(観心寺)、◎銅造観音菩薩立像(法隆寺)、◎銅造菩薩半跏像(東大寺)、◎銅造観音菩薩立像(金剛寺)、銅造菩薩立像、銅造十一面観音立像(仏像型)、銅造観音菩薩立像(以上、当館)
- 〔平安時代後期の仏像〕 第9室
- ◎木造不動明王坐像(園城寺)、木造大日如来坐像(西城戸町)、木造釈迦如来坐像(法隆寺)、木造菩薩半跏像、木造不動明王立像(以上、個人)、◎木造増長天立像(称名寺)、◎木造増長天立像(法明寺)、木造伝前鬼・後鬼坐像(西南院)、木造阿弥陀如来坐像、木造広目天立像(以上、当館)、木造僧形坐像(南明寺)
- 〔鎌倉時代の仏像〕 第10室
- 木造弥勒菩薩立像(林小路町)、◎木造地藏菩薩立像(東大寺)、◎木造十一面

- 観音坐像(現光寺)、◎木造不動明王坐像(正寿院)
- 〔神仏習合の彫像〕 第11室
- ◎木造八幡三神坐像(三驅)(業師寺)、◎銅造蔵王権現立像(二驅)(大峯山寺)、木造蔵王権現立像、木造伊豆山権現立像、木造童子形坐像、銅造金剛童子立像(以上、当館)、木造男神坐像(観音寺)
- 〔獅子・狛犬〕 第12室
- ◎木造狛犬(吽形)、木造獅子(以上、当館)、◎木造獅子頭(手向山八幡宮)、◎木造獅子頭部(東大寺)
- 〔神将形の彫像〕 第13室
- ◎木造十二神将立像(東大寺)
- 特集展示
- 法隆寺伝法堂・乾漆造の諸尊像 本館 第3室
- ◎脱活乾漆阿弥陀三尊像(中の間)、◎脱活乾漆阿弥陀三尊像(西の間)、◎木心乾漆阿弥陀三尊像(東の間)(以上、法隆寺)
- 特別出陳
- 国宝 薬師如来立像(唐招提寺金堂) 本館 第1室
- 平常展
- 中国古代青銅器(坂本コレクション) 本館 第14室・第15室
- 爵・尊・鼎など中国古代の商(殷)漢時代に製作された様々な種類の青銅器を展示しています。

- 平常展
- 仏教美術の名品 2月1日～3月6日 西新館
- 〔絵画〕
- ◎仏涅槃図(石山寺)、◎仏涅槃図(兵庫・浄土寺)、◎仏涅槃図(京都・正暦寺)、◎仏涅槃図(達磨寺)、◎仏涅槃図(長命寺)、仏涅槃図(三宅町大字小柳)、仏涅槃図(元興寺町)、◎釈迦三尊像(仁王会本尊)(西大寺)、◎虚空蔵菩薩像(当館)、◎楊柳観音像(聖衆来迎寺)、千手観音二十八部衆像、十一面観音像〔長谷寺式〕(以上、当館)、馬頭観音像(西大寺)、不動明王像(知足院)、◎毘沙門天像(知足院)、五大虚空蔵菩薩図像(業師寺)、大随求曼荼羅諸尊等図像(当館)、◎聖徳太子像(滋賀・観音寺)、◎行基菩薩行状絵伝(第二・三幅)(家原寺)、◎慈覚大師像(天台高僧像のうち)(一乗寺)、◎興正菩薩像(新大仏寺)、◎忍性菩薩像(大福田寺)、一休宗純像(当館)、夢窓疎石像(慈濟院)
- 〔工芸・考古〕
- 中宮寺塔出土鎮壇具(中宮寺)、元興寺塔出土鎮壇具(元興寺)、◎東大寺金銅鎮壇具(東大寺)、石製舍利容器、金銅製棺形舍利容器、銅銭弘俣八万四千塔(以上、当館)、◎金銅透彫舍利容器(西大寺)、◎金銅火焰宝珠形舍利容器(海龍王寺)、◎金銅五輪塔形舍利容器(浄土寺)、銅宝篋印塔、金銅蓮華形舍利容器(以上、当館)、金銅火焰宝珠形舍利容器、水晶製五輪塔(以上、個人)、伝九州出土経筒、◎伝福岡県出土経筒、和歌山県粉河経

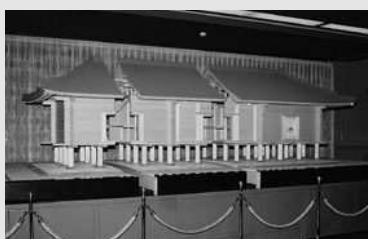
- 塚出土経筒、◎連唐草蒔絵経箱(以上、当館)、銅製経筒(施福寺)、◎金銅透彫経筒(万徳寺)、◎法華経彩絵厨子(清凉院)、◎牛皮華鬘(登)、◎牛皮華鬘(呂)(以上、当館)、◎金銅透彫華鬘(金色院)、◎金銅種子華鬘(当館)、◎木製華鬘(雲山寺)、錦幡、金銅六器、銅製華瓶、銅製独鈷杆(伝山口県長門一宮経塚出土)、金銅火舎・金銅六器・金銅高杯(伝和歌山県白浜経塚出土)、金銅独鈷杆(以上、当館)、金銅三鈷杆(個人)、金銅五鈷杆(当館)、金銅独鈷杆(能満院)、◎金銅五鈷杆(施福寺)、◎金銅五鈷杆(細見美術財団)、◎金銅四大明王五鈷杆、金銅種子五鈷鈴、◎阿弥陀如来鏡像、蔵王権現鏡像、十一面観音懸仏、十一面観音三尊懸仏、◎山王十社本地懸仏(以上、当館)
- 〔書跡〕
- ◎紫紙金字金光明最勝王経(当館)、◎大般涅槃経卷第十二(中尊寺経)(金剛峯寺)、◎涅槃会法式(高山寺)、涅槃講式、遺跡講式、如意輪法、大般若経卷第二百五(興福寺永恩具経)、仏母般泥洹経、香葉抄、夢窓国師円覚経文(以上、当館)、弘法大師二十五箇条遺告(能満院)、◎前後〔禅院額字〕(東福寺)
- パネル展示
- 修復文化財 開催中 地下回廊
- ◎国宝 ◎重要文化財
- 以上すべての展示において、出陳作品を一部変更する場合があります。

正倉院宝庫の模型

本年十月下旬、当館西新館2Fに正倉院宝庫の模型（縮尺1/10）が設置されました。縁あって当館で一般に公開されることになり、「第五十六回 正倉院展」にご来場いただいた皆様にも披露することができました。

正倉院の宝庫は、言うまでもなく奈良時代の建物で、光明皇后が東大寺盧舎那仏に献納した品をはじめ、数々の宝物を現代に伝えました。平成九年には国宝に指定されています（指定名称は「正倉院正倉」）。正面幅三十三メートルに及ぶ巨大な建物で（1/10模型では三・三メートル）、北倉・中倉・南倉の三つの部分に分かれており、北倉と南倉はいわゆる校倉造の構造です。模型は、建物の断面が見られるように四分割されており、校倉造に使用される三角材の組み方や、板材で構成される中倉の構造が、手に取るようによく分かります。

この模型は、文化庁が兵庫県明石市にある和田安弘・和田有功両氏の工房



正倉院宝庫模型

に依頼して製作しました。両氏はこれまでも数々の建造物模型の製作に携わり、平城宮内裏正殿廻廊、薬師寺西塔・金堂、金地院東照宮などが代表的な作品です。実は、当館の西新館1Fに以前から設置されていた東大寺南大門や同転害門の模型も、和田兄弟の手にするものです。

いずれの建造物模型も西新館で公開しています。今度ご来館されました折には、展覧会場の中だけでなく、会場外にあるこうした展示品についても、ぜひ足を止めて、ゆっくりご覧ください。

（当館研究員 野尻忠）

●ギャラリー・トーク●

1月12日（水）「救世観音像旧厨子」 鈴木喜博（当館上席研究員）

2月9日（水）「行基菩薩行状絵伝」 谷口耕生（当館研究員）

3月9日（水）「お水取り」 西山 厚（当館資料室長）

※時間：14:00～ 西新館展示会場にて 入館者は聴講自由

●公開講座●

大和の神々と美術 談山神社の名宝

1月22日（土）「藤原鎌足とその時代」 佐藤 信（東京大学大学院教授）

台風被災復興支援 厳島神社国宝展

1月8日（土）「平家納経と平安文化」 梶谷亮治（当館学芸課長）

1月15日（土）「厳島の芸能－装束の美」 河上繁樹（関西学院大学教授）

1月29日（土）「厳島神社の工芸－甲冑・刀剣を中心に」
原田一敏（東京国立博物館上席研究員）

※時間：13:30～ 会場：当館講堂 定員：200名
聴講無料（13:00より講堂入口で整理券を配布します）

●展覧会関連行事●

●平曲（平家琵琶）の演奏会 1月4日（火）/2月5日（土）

荒尾努氏〔平曲（正調平家琵琶）弾き語り奏者〕

会場：当館講堂 先着200名 無料

●正月蹴鞠会（はつはるのけまりえ） 1月9日（日）11:00/13:00

博物館前庭芝生にて（蹴鞠保存会による実演）

ご自由に観覧下さい。

奈良国立博物館賛助会員の募集について

奈良国立博物館では、当館の諸活動を幅広くご支援・ご支持いただける方々を対象として、賛助会員制度を設け会員を募集しております。いただきました会費は、平常展、教育普及事業、調査研究、出版事業、施設整備等の充実及び文化財の購入・修理に充てさせていただきますこととしております。どうか賛助会員の趣旨にご理解ご賛同いただき、ご入会くださいますようお願い申し上げます。

入会日より1年（入会月の翌年同月末日まで）有効
賛助会員には、特別賛助会員と賛助会員との二種類があります。
年会費 特別賛助会員 50万円以上
賛助会員 個人 5万円
団体 20万円

特典 ①当館の全ての展覧会を何回でも無料でご観覧いただけます。
②特別展・共催展の特別鑑賞会にご招待。
③当館すべての図録を各1部贈呈。（展覧会により作成しない場合がありますので、ご了承ください。）
④「奈良国立博物館だより」（季刊）1部をお送りします。

* 賛助会員のお申し込みは随時受け付けております。
* ご希望の方には賛助会員募集のご案内をお送りします。
* お問い合わせは
奈良国立博物館 総務課 総務・利用サービス推進係
賛助会員担当 0742-22-7771（代）

研究員紹介

平成16年4月1日付けで、新たに奈良国立博物館学芸課研究員2名を採用いたしました。

●吉澤 悟（よしざわ さとる）
所 属：情報サービス室
研究分野：考古学

●清水 健（しみず けん）
所 属：工芸考古室
研究分野：仏教美術史

●展覧会日程●

	1 月	2 月	3 月
本 館	平常展（彫刻）・（中国古代青銅器）		
東 新 館	台風被災復興支援 厳島神社国宝展（1/2～2/13）		特別展 曙光の時代（3/23～5/8）
西 新 館	談山神社の名宝（～1/23）	平常展（絵画・書跡・工芸・考古）（2/1～3/6）	
	法隆寺救世観音像旧厨子（～1/23）	特別陳列 お水取り（2/15～3/21）	

〒630-8213 奈良市登大路町50(奈良公園内) TEL. 0742-22-7771 FAX. 0742-22-7221 テレホン・サービス 0742-22-3331 ホームページ(URL) <http://www.narahaku.go.jp/>